

お客さま満足



お客さま満足への取り組み

<https://www.ccbji.co.jp/csv/customer/>



お客さまのために

CCBJHグループは飲料とサービスを通じ、「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造します」を企業理念として掲げています。「常に誠実で、だれにでもオープンでわかりやすいコミュニケーション」を実現するためにVOC(Voice Of Customer=お客さまの声)課・カスタマーコンタクトセンターを中心にお客さまの期待に応えるための仕組みづくりを進めています。

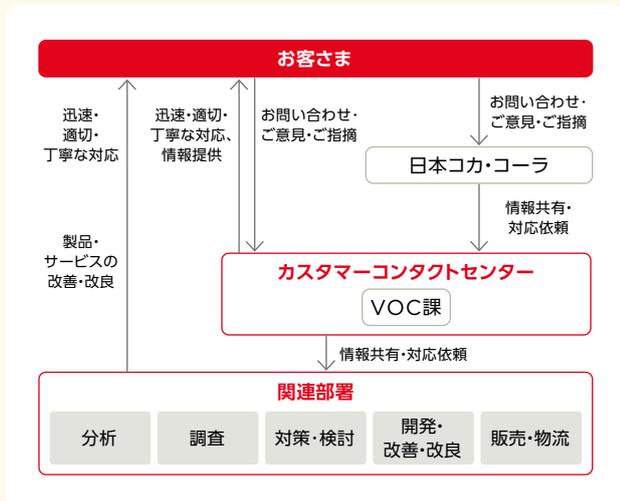
お客さま満足実現のために

カスタマーコンタクトセンターはCCBJHグループすべてのお客さまの窓口です。カスタマーコンタクトセンター内にあるVOC課を軸に、寄せられたご意見やご要望、ご指摘などの情報を社内に共有し、より良い製品・サービスの改善に向けた取り組みを実施しています。

当社のお客さま対応プロセスおよびマネジメントシステムはご指摘対応の国際規格ISO10002(JISQ10002)*に適合しています。

※ISO10002(JISQ10002)とは、お客さま満足の向上のために、製品・サービス品質やご指摘(苦情)対応プロセスの継続的な改善を図ることを目的とした国際規格。[ISO10002(JISQ10002)]には、第三者機関が認証を行う審査登録制度がないため、企業はこの規格への適合を自ら確認し自己適合宣言を行うことができますが、コカ・コーラシステムでは第三者による適合性評価(第三者意見書)を受けた上で自己適合宣言を行っています。

～お客さま満足実現のための仕組み～



お客さま満足実現に向けた取り組み

Weekly Hot Voice

お客さまからのお問い合わせ・ご意見・ご指摘を全社に共有するため毎週、お客さまの生の声をVOC課より“Weekly Hot Voice”として社内SNS・イントラネットを通じ配信しています。



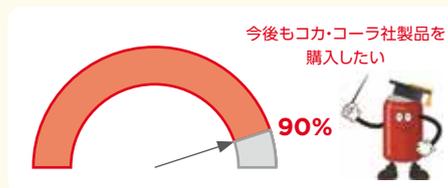
お客さま対応ビデオ

お客さまによりご満足いただくため、社員教育に力を入れています。VOC課より地域担当者へお客さま対応ビデオを配信し、地域担当者が対応前にビデオを確認することで、適切なお客さま対応ができるよう教育の仕組みを導入しています。



お客さま満足度

ご指摘を頂戴したお客さまにアンケートを実施し、お客さま対応の評価およびコカ・コーラ社製品の再購入意向調査を行っています。VOC課では、地域担当者のお客さま対応のフォローを実施し、お客さまの期待に応えるための体制を構築しており、ご指摘を頂戴した多くのお客さまから、これまで通りもしくはこれまで以上にコカ・コーラ社製品を購入したいとの回答をいただいています。



調査方法:
ご指摘いただいたお客さまに対し、SMSメールでのサーベイを実施



カスタマーコンタクトセンター内VOC課

品質保証



品質保証への取り組み

<https://www.ccbji.co.jp/csv/assurance/>


品質方針

私たちはお客さまに、安全・安心・フレッシュでさわやかな製品・サービスを提供するために品質を最優先事項として捉え、すべての業務プロセスで品質の確保および向上に取り組んでいます。

品質に関わる基本的な考え方のもと、国内の基準を遵守するとともに、コカ・コーラシステムは、世界共通の「KORE(Coca-Cola Operating Requirements)」と呼ばれる独自のマネジメントシステムによるオペレーション管理を行っています。

「KORE」は原材料の調達から製造、物流、販売を経てお客さまに製品が届くまでの各過程において「品質」「食品安全」「環境」「労働安全衛生」に関する基準を網羅したシステムで、国際規格であるISOをはじめ、各種法令の要求事項を満たしつつ、さらに厳しい基準を自らに課す内容となっています*。

*「品質」に関してはISO9001に、「食品安全」はFSSC22000に、「環境」はISO14001に、「労働安全衛生」はOHSAS18001に準拠しており(一部、ISO45001に規格移行中)、すべての工場で認証を取得しています。また、ISO14001は、セールスセンター、オフィスなどでも認証を取得しています。

品質に関わる基本的な考え方

- 1 各部門がそれぞれの役割と責任を認識して、お客さま起点の品質管理を実践します。
- 2 「品質」を最優先事項として日常業務を遂行します。
- 3 一人ひとりが常に「品質」を意識し考えて、ブランド価値を高めるために行動します。

品質意識醸成のために

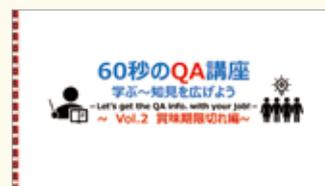
私たちはお客さまに、安全・安心な食品をお届けするために、社員の品質に対する意識の醸成を推進しています。

● CCBJI_QA Monthly Report

部門長宛てに毎月レポートを発信しています。部門長を通じて製品の品質に関して起きている事象や、どのような改善が進められているのかを周知しています。

● 60秒のQA講座

社員の品質マインドの向上を目指し、イントラネットを活用した製品の品質に関わる“ミニ講座”を定期的に実施しています。



● 品質サーベイ・品質インスペクション

品質保証を統括する部門が、製造、物流、営業現場へ足を運んで品質管理状況を確認し、潜在するリスクの把握を行った上で、改善に向けたコミュニケーションを通じリスクの予防を推進しています。

● お客さま対応動画

日本コカ・コーラと連携し、製品の安全・安心のために行っている取り組みや、製品についての素朴な疑問などを、製品をご愛飲いただいているお客さまへ、分かりやすくYouTube動画で提供しています。下記のQRコードからご参照ください。



安全・安心への取り組み

<https://www.ccbji.co.jp/csv/assurance/>


品質管理システム「KORE」

日本コカ・コーラ

CCBJIグループ

調達

原液製造

製造

物流・輸送

販売
(店舗・自動販売機)

お客さま

GFSI(Global Food Safety Initiative)が認証した会社のみから原料を購入しています。

最新の分析機器による厳格な原液の品質チェック(理化学検査、微生物検査など)を行っています。

確かな品質をお届けするために品質管理システムの遵守と品質管理技術の向上に努め、製品の安全性確保を図っています。

工場で製造された製品を高品質のままお届けするように丁寧な扱いを徹底しています。

お客さまに常に安全・安心・フレッシュな製品を提供できるよう店舗や自動販売機における品質管理に努めています。

お客さまからのご意見・お問い合わせを改善活動につなげています。

倫理・コンプライアンス



倫理・コンプライアンスへの取り組み

<https://www.ccbji.co.jp/csv/compliance/>



倫理・コンプライアンス方針

CCBJHグループでは、企業の社会的責任を果たし、社会とともに持続的に発展する企業であり続けるために、社員一人ひとりが正しい行動を行う上での指針となる「倫理・行動規範」を制定し、倫理・コンプライアンスを重視する社風の促進を図っています。また私たちは、ミッション・ビジョン・バリューにおいて、誠実と信頼に基づいた気高い志(Integrity)で行動することに、価値を置いています。

「倫理・行動規範」は正しい行動、人権の尊重、ステークホルダーとの関係、利益相反の4つの柱で構成され、法令や規範に加えて社内の規則や職場の規律に従い、誠実さをもって正しく正直に行動すること、行動する前によく考えること、判断に迷ったり懸念があるときは指導を仰ぐことを社員に求めています。

コンプライアンス教育

社員の倫理観とコンプライアンス意識の一層の醸成、浸透を図るため、定期的に全社員に向けて「倫理・コンプライアンス通信」を発信しているほか、管理者や新入社員などを対象とした階層別の研修や、全社員対象のe-ラーニングなど啓発・教育活動を継続的に実施しています。

倫理・コンプライアンス相談窓口

法令や倫理・行動規範などに抵触する、または抵触する懸念がある行為について、専用メールや電話などにより社員から直接相談を受け付ける「倫理・コンプライアンス相談窓口」を設置しています。相談は匿名でも行うことができ、相談窓口の連絡先は、倫理・コンプライアンス通信やイントラネットへの掲載、各拠点内でのポスター掲示など、さまざまな手段で周知し、相談しやすい環境づくりに取り組んでいます。受け付けた相談案件は、事実を確認し不適切な行為が確認された場合は、適正に対処するとともに是正措置を行います。また、相談案件の対処にあたっては、相談者の保護に努めており、相談したことを理由として相談者に不利益な取り扱いを行うことを禁止しています。

Check!



行動規範・倫理上の重大な違反事例 ▶ なし

過去4年間における環境・エコロジーに関連する重大な罰金や違約金の支払い ▶ なし

政治献金など
政治活動、政治団体、ロビイスト、ロビー団体、事業者団体やその他の免税団体に対する寄付金や支出 ▶ なし

倫理・行動規範を守りましょう

私たちCCBJHグループは、ミッション、ビジョン、バリューにおいて、Integrity : 誠実と信頼に基づいた気高い志で行動することに、価値を置いています。

すべての社員に求められること

- ◆ 法令と倫理・行動規範、また、社内の規則や職場の規律を守りましょう。
- ◆ 良識を持って判断し、不正と思われるような行動は回避しましょう。
- ◆ 私生活でも会社の名誉や利益を損なうような行為は厳につつみましょう。

行動のセルフ チェック 迷ったら、行動する前に自分に問いかけてみましょう。

お気をつけしようとしていることは...



ひとつでも「いいえ」の答えがある場合には、その行動をとらないでください。



コカ・コーラ ボトラーズジャパン
ホールディングスグループ
倫理・行動規範

https://www.ccbji.co.jp/vision/pdf/ja/CCBJgroup_Ethics_jp.pdf



サプライヤー基本ポリシー

https://www.ccbj-holdings.com/corporate/governance/pdf/supplier_ja.pdf

倫理・コンプライアンスポスター

リスクマネジメント



リスクマネジメントへの取り組み
<https://www.ccbji.co.jp/csv/risk/>



リスクマネジメント体制

企業文化に根付いたERMプログラムにより、予測可能なリスクとビジネスチャンスを考慮して、適切な意思決定を全社を通して推進しビジネスの成長を促進します。2020年は、経営陣とリスクインタビューを行い、また執行役員をリスク責任者として任命したほか、全業務部門を調査してリスクを抽出するなど、経営者のより深い関与によるERMの文化的統合を全社で強化することに注力しました。

具体的なリスク予防PDCAは以下のプロセスで実施されます。まず、執行役員の指示とリーダーシップのもと、抽出された主要リスクに対する取り組みを各業務執行部門で実施し、執行役員が進捗の管理に責任を持ちます。さらに、取り組みの有効性を測定し、効果的なリスク緩和策としての妥当性を決定します。これらの取り組みは四半期ごとに監査等委員会および取締役会に報告され、ERMのプロセスと対応の有効性を検証します。当社は2021年、ERM統合プログラムをさらに強化してまいります。

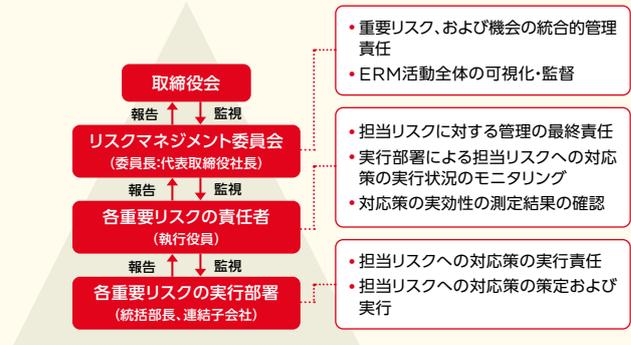
CCBJHグループは、リスクの評価および対応を実施するERMプロセス体制を正式に樹立しました。この体制は、以下により構成されています。

- ① 基本方針の策定やリスクの予防活動を審議および意思決定する常設の「リスクマネジメント委員会」
- ② 重大な問題や事故が発生した場合に対応を指揮する「危機管理委員会」
- ③ 事業活動に重大な影響を及ぼす広域災害が発生した場合に事業継続計画(BCP)の審議および発動を行う「災害対策本部」

リスクマネジメント委員会の役割



リスクマネジメントの責任



2020年の取り組み

ERM活動に対する役員の積極的な参加

2020年は新たに社長・副社長を含む全執行役員本部長へのリスクインタビューを実施し、従来の現場へのアンケート調査によるボトムアップ型に加え、トップダウンでのリスクおよびその軽減策の抽出を行いました。また、各執行役員本部長をアカウントブル・リスク・オーナー(リスク責任者)に任命し、第2ディフェンスラインを担う体制とするなどERM推進への経営陣の関与をより一層深めました。今後も全社を挙げてさらなるリスクの予防・特定・管理およびビジネスを成長させる機会の最大化に努めてまいります。



カリン・ドラガン代表取締役社長とのインタビュー

人権尊重と 社員の働きがい



人権尊重と社員の働きがいへの取り組み

<https://www.ccbji.co.jp/csv/humanrights/>



人事制度

私たちは、「Paint it RED! 未来を塗りかえろ。」を総称とする企業理念のもと、グループのミッション・ビジョン・バリューに沿った戦略目標の達成に貢献した社員を正しく評価し、適切な報酬を支払います。

当社が市場で選ばれ続けることを目指して、より優秀で多様な人財をひきつけ、個人の成長を促していきます。

主な制度例

- 業績のみでなくバリュー（行動）も重視した評価と人財育成
- ハイパーフォーマーに報いる業績連動型賞与
- 役割・責任に応じた労働市場において競争力のある報酬水準
- 社員がやりがいを持って安心して働き続けるための福利厚生制度

働き方改革

CCBJHグループでは、生産性向上を図るべく、ICTツールの導入を積極的に行い、業務の標準化と最適化を推進することで働き方改革の基盤を強化しています。

2020年にはコアタイムを設定しない「スーパーフレックス」の導入、約100拠点におよぶ「サテライトオフィス」の拡大、営業職社員の「直行直帰」推進、「自転車通勤」の推進、「計画年休制度」による年次有給休暇の取得促進などを実施しました。

当社グループでは、新型コロナウイルス感染拡大以前より全社員へのスマートフォン配布やWEBカメラ搭載のパソコン貸与など、ICTの整備を行うとともに社内稟議や押印業務といった業務の電子化を行い、会議・商談・採用面接などをオンライン化することで、テレワークにおける職場環境整備に取り組んできました。

このような施策により、新型コロナウイルス感染症拡大以降もスムーズに在宅勤務へ移行することができました。現在も継続して、在宅勤務が可能な社員については原則在宅勤務を実施しています。

今後も社員を含むステークホルダーのみなさまの「安全・安心」を確保するとともに、事業継続の実現のために社会の変化に対応した働き方改革を推進していきます。

具体的な取り組み

- テレワークの推進（WEB会議・商談・面接の実施）
- サテライトオフィスの拡大（約100拠点）
- スーパーフレックスの導入（コアタイムを設定しないフレックスタイム制）
- 営業職社員の直行直帰勤務の拡大
- 自転車通勤制度の拡充
- 全社員へのスマートフォン配布など、ITツールの拡充（スマートフォンアプリでの出退社打刻・残業申請など）



社内会議・コミュニケーション



在宅勤務



業務のシステム化
（社内稟議、押印業務など）



WEB面接

健康管理

CCBJHグループで働く社員の「健康保持・増進」は、重要な経営課題のひとつと考え、100歳でも元気な体でいられることを目指し(Road to 100)、健康第一の企業風土を醸成していきます。

社員が自ら進んで生活習慣の改善などの健康づくりに取り組むことができるよう、会社は社内に健康増進室を設置、社員の健康診断やストレスチェックの結果データを分析、科学的な根拠のもと、当社独自の健康リスクの管理体制を構築しており、健康事業を通して、一人ひとりの健康づくりを支援しています。

コカ・コーラ ボトラーズジャパン健康宣言 『Sawayaka Style』

～“Road to 100” 100歳でも元気な体を目指して～

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは、みなさまの日々の暮らしに寄り添う企業として、常に健康を第一に考え、幅広い世代のニーズと嗜好に合った価値ある商品・サービスを提供します。そのためには、社員自らが活動的かつ健康的なライフスタイルを送り、安心して・楽しく働くことが大前提であると考えます。社員一人ひとりが自律的な健康保持・増進活動を行うことを責務として認識し、会社と健康保険組合が一体となって健康保持・増進に向けたあらゆる取り組みを進め、「健康第一」の企業風土醸成をはかります。

「Sawayaka チャレンジ!!」の実施



Let's Sawayaka チャレンジ!!

健康経営の社内浸透や自社ならではの施策実施強化を目指し、「Sawayaka チャレンジ!!」と題したプログラムを実施しています。

具体的な取り組み

- 「Sawayaka ウォーク2020」(ウォーキングイベント)の実施
- コカ・コーラレッドスパークスラグビー部によるオリジナルの「Sawayakaストレッチ」の社内SNS配信や各拠点での体操の実施
- 禁煙プログラムの導入

労働安全・車両安全への取り組み

「安全と健康はすべてに優先する」という考えのもと、CCBJHグループで働くすべての人の安全と健康を守るとともに、いきいきとした職場を形成することや生産性を向上させること、また、企業としての社会的責任を果たすことが事業継続の根幹と位置づけ、相互信頼と実践に基づく安全文化の創造と醸成に取り組めます。

「不安全行動の排除」「不安全状態の除去」をキーワードに、職場全体での安全意識の向上や社員一人ひとりの安全行動・安全運転の定着への取り組みを行い、各職場での災害ゼロ・事故ゼロ推進運動を実施しています。

具体的な取り組み

- ドライブレコーダー個人認証
- 新卒社員安全運転研修



- 危険予知訓練(KYT)の実施
- 事故再発防止研修



休業を伴う災害発生率(LTIR)
(20万延べ労働時間当たり)

▶ 0.2

コーポレート・ガバナンス



コーポレート・ガバナンス
<https://www.ccbj-holdings.com/corporate/governance/>



コーポレート・ガバナンス報告書
https://www.ccbj-holdings.com/corporate/governance/pdf/report_jp.pdf



コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

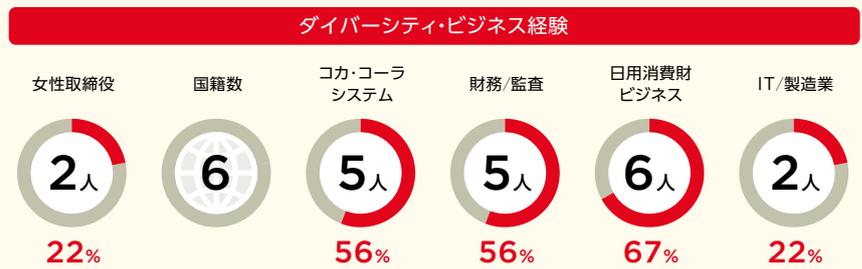
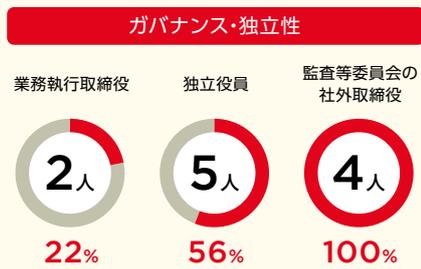
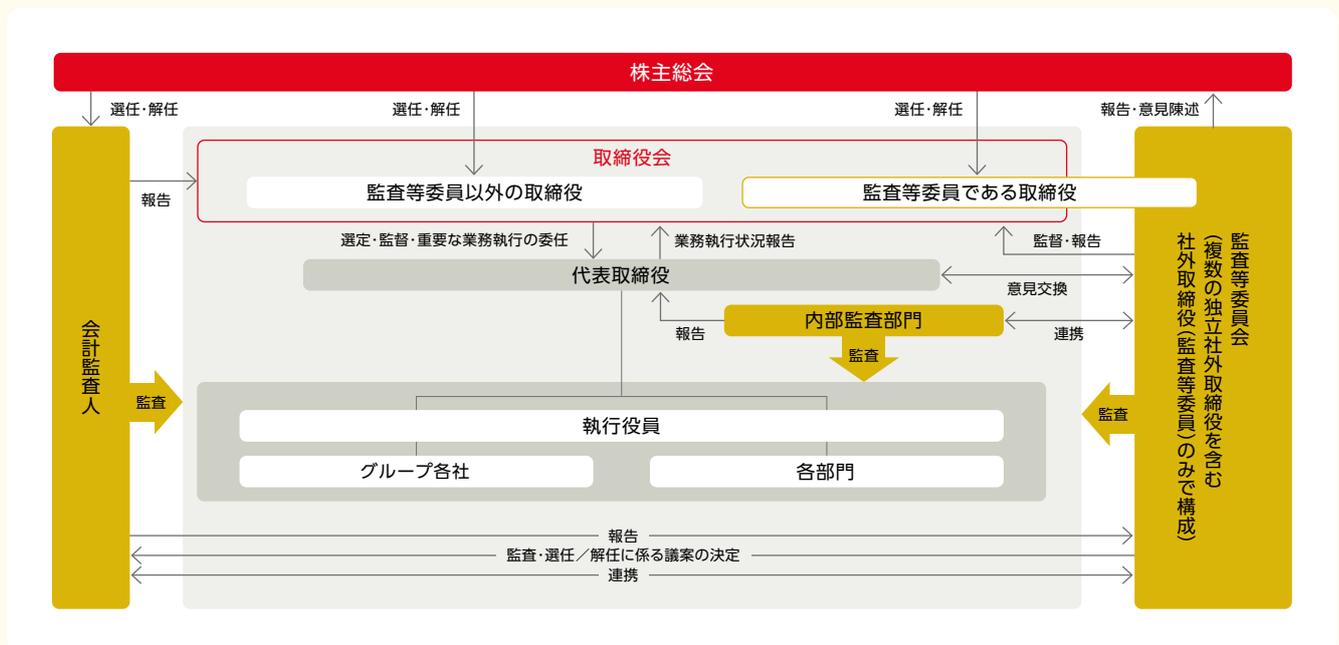
当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、経営の健全性、透明性および効率性を向上させ、中長期的な企業価値向上と株主価値の増大に努めることです。

当社は、ガバナンス体制の一層の強化を目指し、監査等委員会設置会社を採用しています。当社の監査を担う監査等委員会は、複数の独立社外取締役を含む社外取締役（監査等委員）のみで構成されており、この社外取締役である監査等委員が、取締役会において議決権を有していること、ならびに株主総会

における取締役の指名・報酬等についての意見を陳述する権利を有していることなどにより、経営監督機能がより強化されています。

また、当社は、意思決定および経営監督機能と業務執行機能を分離すべく、執行役員制度を採用しているほか、重要な業務執行の決定の一部を取締役に委任することにより、取締役会において特に重要度の高い事項についての審議をより充実させるとともに、それ以外の事項について、経営陣による経営判断の迅速化も図っています。

コーポレート・ガバナンス体制図(2021年3月25日現在)



※円内の数字は該当する取締役の人数。国籍の数字は取締役の国籍数



カリン・ドラガン
代表取締役社長

日本におけるコカ・コーラボトラーの代表取締役社長、また、海外数カ国のコカ・コーラボトラーにおける豊富な経営経験とコカ・コーラ事業におけるグローバルな知見を有しています。



ビヨン・イヴァル・ウルゲネス
代表取締役副社長 CFO

ザ コカ・コーラ カンパニーにおける豊富な経営経験とコカ・コーラ事業におけるグローバルな知見を有しています。



吉岡 浩
社外取締役、独立役員

日本におけるコカ・コーラボトラーの社外取締役やソニー株式会社において培われた豊富な経営経験とグローバルな知見を有しています。



和田 浩子
社外取締役、独立役員

米プロクター・アンド・ギャンブル社の役員、およびダイソン株式会社や日本トイザらス株式会社の代表取締役として培われた豊富な経営経験とグローバルな知見を有しています。



谷村 広和
社外取締役、独立役員

みちのくコカ・コーラボトリング株式会社の代表取締役社長であり、同社における経営陣としての豊富な経営経験と知見を有しています。



イリアル・フィンナン
社外取締役(監査等委員)

日本におけるコカ・コーラボトラーの社外取締役やザ コカ・コーラ カンパニーおよびグローバルのボトラーの経営ならびに全世界のコカ・コーラボトラーを統括するボトリング投資グループの代表として、長年コカ・コーラビジネスに携わってきた会社経営者としての豊富な経験やグローバルな知見を有しています。



行徳 セルン
社外取締役(監査等委員)、独立役員

日産自動車株式会社および西本 Wismettacホールディングス株式会社において培われた豊富な経営経験やグローバルな知見と、日産自動車株式会社の監査役としての監査経験を有しています。



濱田 奈巳
社外取締役(監査等委員)、独立役員

自身でファイナンスに関するコンサルティング会社を経営するなど財務および経営に関する豊富な経験を有し、かつ、リーマン・ブラザーズ証券会社の日本法人の会社経営者として培われた豊富な経験やグローバルな知見を有しています。



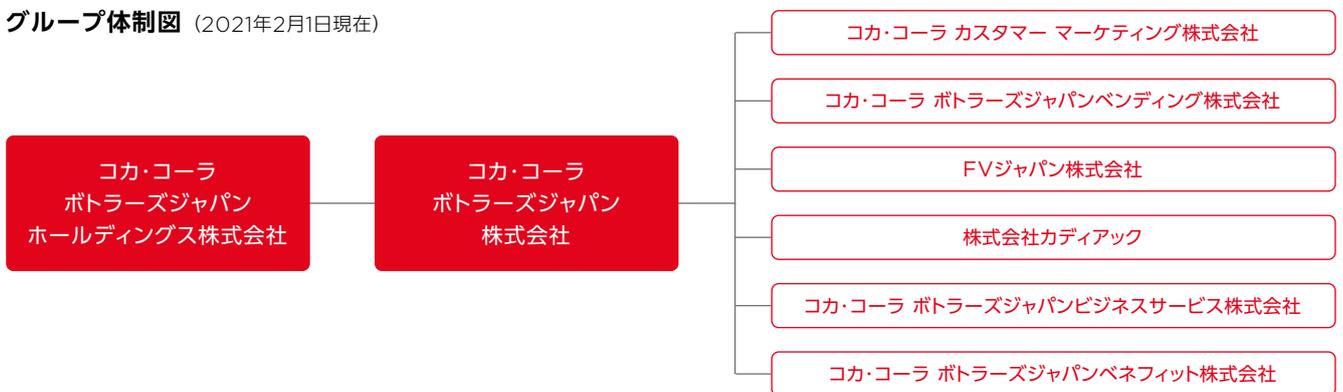
バムシー・モハン・タティ
社外取締役(監査等委員)

ザ コカ・コーラ カンパニーの中国・モンゴルオペレーティングユニットのプレジデントとして、アジア地区のビジネスユニットにおける会社経営者としての豊富な経営経験を有しています。

会社概要 (2021年2月1日現在)

名称	コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社 Coca-Cola Bottlers Japan Holdings Inc.
設立	1960年(昭和35年)12月20日 ※2018年1月1日 コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社に商号変更
決算期	12月31日
資本金	15,232百万円
代表者	代表取締役社長 カリン・ドラガン
上場取引所	株式会社東京証券取引所(市場第一部)

グループ体制図 (2021年2月1日現在)



外部評価



Dow Jones Sustainability Indices (DJSI)



CDP



ISO-国際標準化機構



食品安全
マネジメントシステム
FSSC 22000



準なでこ銘柄



えるぼし



くるみん



2021
健康経営優良法人
ホワイト500

健康経営優良法人
ホワイト500



新・ダイバーシティ
経営企業100選



SSON Impact Awards
Asia



★★★★ 2021

日経スマートワーク
経営調査 4星



日経SDGs経営



work with Pride



スポーツエール
カンパニー



MSCI 日本株女性活躍指数(WIN)



東京都女性活躍推進大賞

このほか、2019年度「東京都障害者雇用エクセレントカンパニー賞」産業労働局長賞を受賞。

※当社やグループ会社が取得したものです。

私たちは、適時・適切な情報開示を行うことにより、あらゆるステークホルダーのみなさまから正しく理解され、信頼される企業になることを目指しています。持続的成長を実現するためのESG領域（環境・社会・ガバナンス）における戦略や活動などの非財務情報を「CSVレポート」でお伝えし、私たちの推進する戦略や実績を含む財務情報を「アニュアルレビュー」および「株主のみなさまへ」で開示することで、統合的にみなさまにご報告するように努めています。また、コーポレートサイトでは、より詳細、かつ広範な情報を公開しています。



財務・非財務統合サイト

<https://www.ccbj-holdings.com/corporate/download/>



財務情報

● 株主のみなさまへ



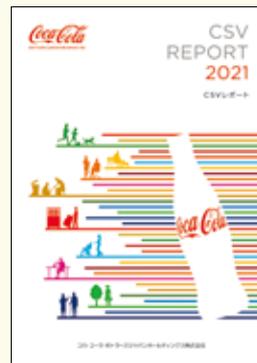
● アニュアルレビュー



- ・ 有価証券報告書
- ・ 決算短信
- ・ 決算説明会資料

非財務情報

● CSVレポート



- ・ コーポレート・ガバナンスに関する報告書
- ・ ESG関連データ
- ・ GHGプロトコルに基づくCO₂排出実績

IR・投資家情報



IR・投資家情報

<https://www.ccbj-holdings.com/ir/>



社会との共創価値 (CSV)



社会との共創価値 (CSV)

<https://www.ccbji.co.jp/csv/>



工場見学のご案内

※現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、工場見学は休止しています。詳細はウェブサイトでご確認ください(2021年5月時点)。

コカ・コーラ社製品を多くのおみなさまに親しんでいただくため、工場見学を実施しています。

「コカ・コーラ」誕生のエピソードや、歴史、品質管理や環境への取り組みをご紹介するとともに、迫力ある製造ラインをご見学いただけます。

また、自宅や学校にいなから全国どこからでも参加可能なリモートでの「オンライン工場見学」の開催や、製造ラインの案内動画視聴や「コカ・コーラ検定」を体験できる「バーチャル工場見学」もウェブサイトで開催中です。みなさまの“ご来場”をお待ちしています。

工場見学ガイドが
オンラインで
工場をご案内!

※2021年6月から開始予定



動画と写真で
バーチャル
工場見学!



「オンライン工場見学」のご予約、「バーチャル工場見学」の体験は、ウェブサイトをご確認ください。

<https://www.ccbji.co.jp/plant/>



見学可能な工場 (現在見学は休止しています。) ※2021年5月時点

蔵王工場

宮城県刈田郡蔵王町宮字南川添1-1



多摩工場

東京都東久留米市野火止1-2-9



東海工場

愛知県東海市南柴田町の割266-18



京都工場

京都府久世郡久御山町田井新荒見128



広島工場

広島県三原市沼田西町惣定247



えびの工場

宮崎県えびの市大字東川北字有留1321-1





青木 雅生氏

三重大学人文学部 教授

経営学、経営史、研究開発マネジメント論などを専門とし、企業が社会に果たす役割をふまえ、“良い経営”とは何かに関わって、“企業の主体性”を問いつつ、企業を通じて社会がよりよくなることを研究している。2002年立命館大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了。博士(経営学)。

コロナ禍において業績が芳しくはない中、それでも医療関係者への製品の寄贈やニューノーマル時代への対応を行い、広島工場を災害から復興させ、なおかつ「廃棄物ゼロ社会」を目指した取り組みを前進させておられることに敬意を表します。

E(環境)の面では、ラベルレス製品などによって廃棄物を減らす努力とともに、PETボトル回収を強化するなど「ボトルtoボトル」実現を確実に進めておられます。今後、ビジネスモデルの変化をも含む「サーキュラーエコノミー」の考え方を取り入れることを期待します。

S(社会)の面では、工場の復興や緑化推進などを通じて地方自治体の関係を良好なものとするなど、地域行政・教育機関・市民団体との産官学民連携にも尽力され、SDGsの17番目の目標である「パートナーシップ」の推進の一翼を担っておられます。こうした取り組みは、地域のあらゆるところに存在する顧客との関係を強化するものですので、一層推進していただくことを期待します。

G(ガバナンス)の面では、女性活躍をはじめとするダイバーシティ&インクルージョンの取り組みによって、従業員の皆さんの働きやすさのための仕組みづくりが進められています。人事評価制度との親和性をさらに高め、働き甲斐と働きやすさの両立を従業員の皆さんが実感できるレベルで実現されることを期待します。

飲料事業を中心とするCCBJHグループにとって、ニューノーマル時代における事業展開は平たんな道のりではないでしょう。しかし、SDGsをはじめとする社会が抱える課題に対して、事業を通じて果敢に挑戦しておられる姿勢は、お客様からも働く人からも、そして地域社会からも「選ばれる企業」へとさらに進化していくことにつながります。社会がどのように変化しようとも、必要とされる価値を提供し続けられる企業であることを共創価値(CSV)の取り組みを通じて示し続けていただきたいと思います。

CSVレポート2021 アンケート

今後のCCBJHグループの取り組みや、CSVレポートの制作の参考にさせていただくため、アンケートを実施しています。みなさまのご感想やご意見などをお聞かせください。



下記のURLまたはQRコードよりアクセスしてください。

<https://form.ccbji.co.jp/form/csv2021>



Coca-Cola

BOTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

〒107-6211

東京都港区赤坂九丁目7番1号ミッドタウン・タワー

お問い合わせ

ウェブサイトの「お問い合わせ」フォームをご利用ください。

<https://www.ccbj-holdings.com/inquiry/>

